

No.24

あすなるだより

20周年記念号

2005年7月1日

発行 三重県立^{こども}小児心療センター あすなる学園 広報担当
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL.059-234-8700 FAX. 059-234-9361

分離独立20年目に思うこと

園長 西田 寿美

今年の4月、当園は県立高茶屋病院（現在のこころの医療センター）から分離独立し「小児（こども）心療センターあすなる学園」と名称変更して20年目を迎え、「子どもの育つ場から」と題した記念シンポジウムを4月末に開催しました。20周年記念誌も編纂しました。そのうち皆様のお手元にお届けする予定です。その作業の中で、治療理念として掲げてきた4つのスロガンも以下のように一部修正しました。

1. 子どもを中心に行動する医療
2. 時代のニーズに応える専門医療
3. 子どもの健康な力を育む包括医療
4. 専門性を互いに学び合うチーム医療

大きな節目に自らの軌跡を振り返り、修正し、新たな目標を設定することが大切と考えております。

私事ですが、5月15日の中日新聞日曜版「おはようインタビュー」に記事が載りました。写真が大きく載り恥ずかしい限りでしたが、そのことが最近の診察でよく話題になりました。小学校6年生の自閉症の男子は開口一番、「西田先生の広告を見たよ」、・・・?!、あるお母さんは暴露された私の年齢から退職のことを気にされました。

いろいろな反応を楽しませていただきました

が、一番うれしかったのは31歳の男性からのメールで、久しぶりに新聞で顔を見て懐かしくてメールしたとのことでした。16年前、中学3年の8ヶ月間入院治療を受けたこと、7回離園してその節は迷惑をかけたこと、中学卒業し高校進学したが中退、仕事を転々としたがやっと天職と思える仕事を見つけ9年目になること、3年前に結婚もしたと書いてありました。『今の自分があるのも、やはりあすなる学園でいろいろ体験させていただいたおかげです。規則正しい生活、集団生活、人との接し方、夏のキャンプではリーダーに任命され、総合管理の力を試されました。今となっては大変良い思い出であり、今の仕事に活かされています。当時一緒だった病棟の仲間とは今も交流があります。超一流企業の研究員、有名国立大学の大学院生、面白いやつがいっぱいいますが、当時のメンバーで今もお互い励ましあって生きていますよ。今の子どもたちに何か貢献したいと考え、テレビアニメの人気キャラクターの声優ファンクラブを企画し、今までにないファンとタレントの交流、特に自分に閉じこもってしまう子どもや身体に障害があり閉鎖的になっている子どもたちを勇気付ける企画を、ボランティア活動で行っています。こういう企画で子ども達が勇気や元気を得て、諦めず上を向いて前に進んでいただきたいと思っております。』とありました。こういう便りが一番うれしいものです。日々の仕事のストレスがいつべんに解消される感があり、早速